

えびの市観光大学【運営実施要項】

1. 実施に至る背景と目的

観光振興は地域活性化のみならず、雇用の増加や経済成長、観光に訪れた人が定住を検討するきっかけとなる可能性を秘めている。観光は、地域に住む人々と観光客の間にいる人口である関係人口の増加にもつながる。また、令和6年1月17日に観光庁が公表した2023年訪日客の旅行消費額は計5兆2923億円で過去最高であり、訪日客の消費が新型コロナウイルス禍前を超え、消費額は政府が目標として掲げていた通年5兆円を初めて突破した。同年の訪日客数は2506万人でコロナ禍前の2019年の8割にまで回復したことが報道されており、2025年に大阪万博が予定されている中、インバウンドのさらなる増加が予測されており、アドベンチャーツーリズムなどの、「モノ消費からコト消費へ」のトレンドを的確にとらえることが強く求められている。観光は、自治体のシティセールスでは欠かせない要素となっており、観光資源の磨き上げとともに、効果的な広報のあり方を行政のみならず、市民、関係事業者と共有する必要がある。

本市は、令和6年度に観光振興計画の見直しを予定している。人材そのものを含めて観光資源を改めて整理し、霧島ジオパークをフィールドとした新たなツーリズムやそれに付随した2次交通などの対策を構築し、本市が特に弱いとされている広報戦略・広報手順書を包含した観光振興計画を策定することが求められている。

えびの市観光大学は、観光振興等に対して、市民、関係事業者、行政機関などが共に学び、共に新たな行動指針を創りあげるために取り組むものである。

2. 事業名称等 えびの市観光大学

3. 実施主体 えびの市、株式会社えびの及びえびの市観光協会による共催

4. スケジュールと内容

(1) スケジュール

〇5月24日	観光大学① キックオフイベント 講演・新たな取組報告（尾八重分校・KRAP）
〇7月31日	観光大学②「えびの市を取り巻く観光の情勢について」
〇8月23日	観光大学③「SNSの効果的な活用と市民総出の観光広報戦略・手順書づくり」
〇10月28日	観光大学④「テーマ：独創性を生かす①」ワークショップ
〇11月	観光大学⑤「テーマ：独創性を生かす②」事例報告・ディグ(深堀)ワークショップ
〇1月下旬	観光大学⑥「テーマ：独創性を生かす③」事例報告・ディグ(深堀)ワークショップ

(2) 内容等

ゲストスピーカーを通じて、新たな気づきを共有し、またワークショップなどから観光資源を整理し、アドベンチャーツーリズムなどの新たな観光振興策の原型を構築する。また、新たに必要とされるサービスへの対策や広報のあり方を学び、観光振興に対して、行政だけでなく市民共通の「知恵」を蓄積していく。

第 4 回 えびの市観光大学【実施要項】

1. 実 施 目 的 運営実施要項に記載

2. 日 時 令和 6 年 10 月 28 日 (月曜) 13:30～15:30

3. 場 所 えびの市役所 4 階大会議室 (住所) 宮崎県えびの市大字栗下 1292

4. 出 席 人 員 ○観光協会 ○株式会社えびの ○京町温泉旅館組合みなほ会

(参集範囲) ○えびの青年会議所 ○えびの市商工会 ○JA みやざき ○飲食事業者

○地域活動実践者 (KRAP・花火大会実行委員会・(株) Terra) ○市関係職員

○県立飯野高等学校地域・教育魅力化コーディネーター

○霧島コネクト ○市内指定管理者 ○えびの高原ホテル ○えびの市ガイドクラブ

○その他

5. 日 程

時 間	内 容 等
13:30	開会・趣旨説明
13:35	「テーマ：独創性を生かす①」ワークショップ 前半戦
14:45	休憩
14:55	「テーマ：独創性を生かす①」ワークショップ 後半戦
15:30	閉会

○ワークショップファシリテーター：南九州みらいラボ代表世話人 下原田寿氏